

ワークショップの結果：児童相談所業務の現状を踏まえた、児童虐待の早期発見と的確な対処のための取組のあり方について グループ提案のまとめ

相談しやすい環境づくり

- ◆ 「区家庭児童相談室」 もっとわかりやすい名称にする。（グループ 3）
- ◆ 「子ども安心ホットライン」短縮ダイヤルでかけやすくする。相談内容事例を紹介する。メールでも受付する。（グループ 3）
- ◆ サークルや地域の施設等、親子が集まる場所で職員が情報収集をする。（グループ 3）
- ◆ 出張区家庭児童相談室、地域へ出かけよう。（グループ 4）
- ◆ 地域の子育てサロンに相談窓口を設け、子育て経験のある方の話を伺える機会を。（グループ 5）
- ◆ どんな場合、状況で相談したらいいか、具体的な実際のエピソードなどをまじえ、わかりやすく伝える。（ガイドライン）（グループ 6）

子どもを見守る環境づくり

- ◆ 支援者（児童相談所、学校、幼稚園、保育園、町内会）と当事者がしっかりつながれる場を作ることが第一！！（グループ 1）
- ◆ オレンジリボン協力員と町内会の連携を、子供達との交流会を設ける。（グループ 2）
- ◆ 町内の子供達に声をかけ、親密な関係をつくり、子供の口から周囲の大人に話しやすいようにする。（グループ 2）

児童虐待や児童虐待に関する取組の PR

- ◆ 地域に情報を伝えるために。 出前出張、区家庭児童相談室を地域の会館や児童会館で実施する。 出前講座を連町を通して町内会に伝える。 PTA の大会などで親の大規模ネットワークで広げる。（グループ 1）
- ◆ 広く市民に伝えるために。 ブログを通して関心層の輪を広げる。 twitter でハッシュタグ（虐待）で発信を呼びかけ。 パナー広告でインターネット上に広げる。 TV、ラジオでのよびかけ。（グループ 1）
- ◆ TV を使ってもっと PR していく。「こういうことが虐待」「子ども安心ホットライン」「オレンジリボン」（グループ 3）
- ◆ 「バンド」をつくり、売上金を児童虐待防止の資金につなげる。（グループ 4）
- ◆ 児童相談所の取組の PR を強化。 コンビニやスーパーにポスター、ステッカーを貼るなど。（グループ 5）
- ◆ 子ども安心ホットラインは地下鉄の吊り広報枠を活用するなど、広く市民に知ってもらう。（広報誌、コンビニ）（グループ 6）
- ◆ 区家庭児童相談室の存在（制度・場所）をもっと PR していく。（グループ 6）
- ◆ 親本人だけでなく、周辺の人にも区家庭児童相談室を知ってもらうよう、広報誌、ポスターで継続的に PR。（グループ 6）

関係機関の連携

- ◆ 支援者（児童相談所、学校、幼稚園、保育園、町内会）の役割を明確にする。 まず情報共有、一緒に対策を考える体制。（グループ 1）
- ◆ 共通の窓口が必要。 どこにかけても虐待情報が一本化して児童相談所に行っていることを知ってもらう。（グループ 1）
- ◆ 保健センターや学校と児童相談所との連携を強める。 要注意家庭をマークし、情報を共有する。（グループ 2）
- ◆ 「オレンジリボン協力員」をはじめとする地域の人や組織が連携する取組の「モデル地域」をつくる。（グループ 3）
- ◆ 地域が運営にかかわるコミュニティスクール（のような場所）と児童相談所が連携。 もっと気軽に相談できる地域でのボランティア体制づくり（支援体制ネットワークと啓蒙）（グループ 4）
- ◆ 区家庭児童相談室と町内会との連携体制をつくる。（グループ 6）

未然防止の取組

【子ども向け虐待教育】

- ◆ 人権や虐待について子供への教育や子供同士の話し合いをさせる。（グループ 2）
- ◆ 子どもに自分の身を守ることを教える。「虐待」という言葉を子どもに伝えるのは重たい。 気軽に相談できる環境。（グループ 5）

【大人向け虐待教育】

- ◆ 親への教育が必要。 親の再教育。 子育て教育、プレママ教室等、子育てを始める時の教育を大事にする。（グループ 1）
- ◆ 要注意な親に対して、強制的な教育を実施する。義務化。（グループ 2）
- ◆ 母子手帳を活用する。 親の子育て相談番号（子ども安心ホットライン）を明記する。 健診を受けなかった親を訪問する。（グループ 3）
- ◆ マタニティ期間や出産後病院に居る間に学習の機会を。 安心感やゆとりを！（グループ 5）

【避難場所等】

- ◆ 子ども自身が SOS を出して逃げられる手段、場。（子ども安心ホットラインの電話番号を子供達にも周知、子どもが逃げられる専門の場所をつくる）（グループ 4）
- ◆ 子どものショートステイがあれば虐待まで追いつめることを防止できるのでは、NPO に期待。（グループ 4）

【事例分析】

- ◆ 虐待がなぜ起きているのか事例の分析をし、対処方法を明らかにし根をたつ。（グループ 2）